

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
 東部教育局
 〒680-0846 鳥取市扇町21番地
 東教発 H31.3.1 No.154
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

地域の教育資源を活用した開校2年目の実践

八頭町立船岡小学校



八頭町立船岡小学校は、平成29年4月に3つの小学校（隼、大江、船岡）を統合し、新しい小学校としてスタートを切りました。3つの地域それぞれの特色やよさを生かし、「ふるさとを愛し 強く 豊かに 未来を拓く子どもの育成」を学校教育目標として、活力ある学校づくりを推進しています。2年目である本年度は、昨年度つくりあげた新たな人と人との出会いやつながりを土台にし、地域の人とともにある学校づくりをめざし、児童・教職員・保護者・地域の方それぞれの学校に対する願いや思いを大切にしたい実践を深めています。



～一人一人のがんばり・成長の記録～

実践Ⅰ 輝きプロジェクト

～本物・一流に触れる体験～

出会いを大切に、人の生き方に学ぶ学習をしています。講師には、「我が校のよさを発見し、表現する楽しさ」「初めてのことに對しても、積極的に関わる楽しさ」を、メキシコ五輪マラソン競技メダリストには、「苦手なことにもあきらめずに挑戦する大切さ」を学びました。また、地域出身であるバルセロナ五輪メダリストの森下広一さんとのマラソン大会における交流も続いています。

我が小学校は、仲のよさにかけては、他に負けないのが自慢である！



<学校名乗り>
～講話の調子で堂々と発表～

実践Ⅲ 学力向上の取組

～全教職員の共通実践～

ととりの授業改革【10の視点】を活用した授業づくり、家庭学習と連動した授業展開等、学びに向かう力の向上をめざしています。

教職員は、プロジェクトチームをつくり、児童理解と授業改善に努めています。学びの楽しさを味わい確かな学力をつけるために、保護者と連携して実践を積み重ねています。

実践Ⅱ フレンドシップ交流

～神戸市の小学生との交流～

第二次世界大戦中、神戸市の子どもたちの疎開先となっていたこと、阪神・淡路大震災の際に、町をあげて、いち早く炊き出しなどの災害支援を行ったことなどをきっかけに、2つの小学校の5・6年生が2年間にわたり、交流・学び合いを実施しています。この交流は、平成9年度から21年続く伝統となっています。

船岡小学校の子どもにとっては、地域の人のあたたかさ、歴史や伝統にふれる学習となっています。

<神戸市駒ヶ林小との交流>



5年生 神戸市で震災体験者の話を聞き、共に学ぶ



6年生 修学旅行で船岡小を訪問



～対話的な学びを取り入れた学習、思考ツールを活用した学習展開を全教職員で～

教職員が地域や子どもたちの良いところを教育活動に積極的に取り入れることで、地域に愛着が生まれ、ふるさとについて語り、我が校を自慢できる子どもを育成する取組となっています。学校教育目標実現のために、地域の人・もの・ことをつなげる取組をすることで、子どもたちの笑顔や学校全体の活力・活気が生まれてくるのではないのでしょうか。

主体的に学び続ける子どもの育成をめざして

局長 吉川 誠司

今年度も、いよいよ残り1か月を切りました。東部教育局は、「主体的に学び続ける子どもたちの育成をめざして ～市町教育委員会と協働し、学校との連携を通して～」をミッションにかかげて1年間取り組んできました。

教育局では、1年間を通してすべての園・学校を訪問させていただきました。振り返ってみますと、園・学校、あるいは中学校区で、それぞれの地域や子どもの実態に即したたくさんの素晴らしい教育の営みや学校の挑戦が展開されてきていることを実感します。その取組実践をポイント集や本通信で紹介してきましたが、まだ、まだ、紹介しきれないたくさんの優れた実践があります。

「主体的に学び続ける子どもたちの育成」のヒントが、こうした日々の園や学校の実践にたくさんあると考えます。このたび、ポイント集を改訂し多くの実践を新たに掲載しておりますので、ぜひ、お読みいただき、活用していただきたいと思ひます。

今後、さらに東部地区、鳥取県において、「保育・授業」を核にした教育実践が積み重ねられるよう教育局として支援していくとともに、情報を発信していきたいと考えています。ますます子どもたちが元気にいきいきと輝く園・学校となることを願っています。



授業改善に向けた学び合い

～授業改善ワークショップ及び
エキスパート教員公開授業より～



指導力を高め授業改善を進めるためには、経験豊かな教員と新しい感覚をもつ教員が互いに学び合うことが大切です。校外においては、エキスパート教員の授業公開やワークショップへの参加もきっかけの一つとなります。平成21年度より始まったエキスパート教員認定制度において、今年度は東部地区で25名のエキスパート教員が活動しています。エキスパート教員は、所属校での指導・助言、積極的な授業公開等を通じて、鳥取県の教員の指導力向上の一翼を担っています。その活動の一端を紹介します。

授業改善ワークショップ (平成30年12月26日)

全体発表と6つの分科会を行いました。エキスパート教員の授業への思いや実践、児童生徒との関わり方などについて話を聞いたり、実際に模擬授業や日頃の悩みに対する助言を受けたり、少人数での協議を通して課題の解決策を探ったりしました。



*ワークショップのまとめを、東部教育局HPに掲載しています。

公開授業及び研究協議会

エキスパート教員は、年間1回以上、校外教員に対して授業を公開しています。授業を参観したからこそ気付ける授業づくりのこつや教材・教員の示し方、児童生徒との関わり方など、学ぶことがたくさんあります。



*隔週で配信している東部地区研究会案内でも授業公開日等をご案内しています。

ワークショップ等に参加された先生方からは、「自分の実践に取り入れたいことが見つかった。」「悩んでいたことが解決できた。」など、好評です。「子どもに学力をつけたい。」「子どもの意欲を引き出したい。」と、私たちは、向上心と使命感をもって、日々教育活動に向かっています。自分の学びが、目の前の子どもたちを育てることにつながることを意識し、積極的に学び合う姿勢をもちたいものです。

生徒指導 コーナー



組織的・継続的な生徒指導の体制づくり (引継ぎについて)

児童生徒が進学・進級し、また、転出入も多くなる年度末が近づいています。この時期は、学校・学年間において児童生徒に対する認識の差が生じないよう確実に引継ぎを行い、継続した指導・支援をしていくことが大切です。以下に示したチェックリストで、再確認をしてみましょう。

【指導記録(個人カルテ等)を活用した確実な引継ぎ】

- 児童生徒の状況や対応状況を詳細に把握し、対策を立てたりデータを蓄積したりするための共通のものを用意している。
- 担任等の個人持ちにせず、職員室等に保管場所を設けている。
- いつでも全教職員や関係者が閲覧できるようになっている。
- 入学前からこれまでのものがひとつにファイルされ、記録が学校全体の指導資料として活用できるようになっている。
- 学年末・学年始休業の間に、情報共有(引継ぎ)の時間を設けている。

個人記録表(引継ぎシート)

年	小学校入学	学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
平成	中学校入学	組									
平成	男・女	出席番号									
氏名		担任名									

(欠席等の状況)

学年	欠席等の日付	欠席		遅刻	早退
		欠席	保健室等		
1年	4月～7月				
	8月～11月				
	12月～1月				
	合計				

(裏面)

年	月	日	対応の記録	生徒・保護者の反応	記録者

このシートは東部教育局のホームページに掲載している例です。表面には小1から中3までの各学年での欠席(理由や状況も)・遅刻・早退・保健室来室回数など、裏面には対応の記録や児童生徒・保護者の対応などを記録します。

児童生徒の支援には、記録の蓄積やその活用が必要です。それが「見える化」されることで、全教職員に児童生徒の状態が意識され、組織的・継続的な支援となります。「情報の見える化」と「情報共有(引継ぎ)」が、来年度のスムーズな指導・支援につながります。

東部教育局の
マスコットキャラクターが
新しくなりました!



2代目イーナです。初代と同じく、東部教育局のマスコットキャラクターとして様々なところで登場します。東部教育局の東(East)と教育(Education)の頭文字をデザインし、東部の教育のいろいろな「いいな!」をめざして活動していきます。

学力向上を支える「家庭学習の質の向上」

～ 家庭学習の質向上研修会（2月7日）より～

東部教育局では、本年度より「地域課題に応じた学力向上推進事業」で、東部地区全市町、5中学校区15校において、家庭学習の質の向上をめざした取組を進めています。各中学校区の強みを生かし、課題の解決に向け、市町教育委員会、学校、家庭が連携した実践研究を推進しています。2月7日には、本年度各中学校区で行われた様々な実践の中で、特色のある「いちおしの実践」を中心に取組をまとめ、ポスターセッション形式で、発表や質疑を行い、優れた実践の共有を行いました。

事業実施中学校区の「いちおしの実践」



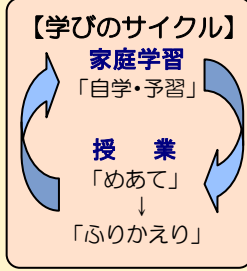
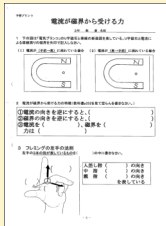
これらの実践をぜひ参考にしてみてください！

鳥取市「青谷中学校区」

自主学習や予習をきっかけに、授業に進んで喜んで向かう子どもを育てたい

学びのサイクルの確立

授業と連動した自主学習や予習課題を工夫する。子どもは、授業の見通しをもつことができ、早く授業の主活動に入ることができる。授業の全員参加が促進される。



理科の予習課題



5中学校区によるポスターセッション



本事業アドバイザー 長谷浩也氏による講演と指導助言

智頭町「智頭中学校区」

自らの家庭学習を見つめ、計画性を高めさせたい

家庭学習実地指導

家庭学習を学校で実際に行う時間を設定し、手順やノートの使い方等を指導するとともに、集中して学習することを体験させる。教師が直接指導でき、個の実態把握にも有効。学級通信で保護者にも様子を伝え、協力を得ながら進めている。



家庭学習実地指導の様子

岩美町「岩美中学校区」

自ら課題を見つけて取り組む子どもを育てたい

家庭学習がんばりカード

中学校区で検討したがんばりカードの共通実践。子どもは取り組む時間の管理や学習内容の工夫などの意識が高まっている。保護者啓発も行い、保護者の励ましも子どもの自信につながっている。

【がんばりカードの主な項目】

- ・ 月日、学習の目標、振り返り
- ・ 家庭学習の開始時刻、終了時刻
- ・ 学習したものに○をする（音読、計算、漢字、自学）
- ・ 自学の内容、音読の回数

八頭町「八頭中学校区」

家庭学習の意義を子ども自ら考えながら取り組ませたい

やぶっ子チャレンジの日

活用問題を教師が作成、選択し、8のつく日に実施。子どもも教師も毎回振り返りを行い、よりよい実践となるよう努めている。子どもは取組への意欲が高まっている。問題作成が教材研究にもつながっており、教師も取組への意識を高めている。

【活用問題作成のポイント】

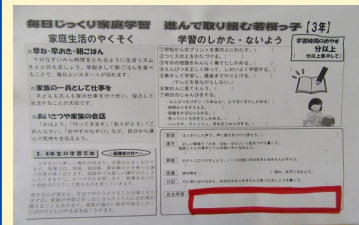
- ・ 授業につながる問題か
- ・ 主体的に取り組める問題か
- ・ 知識や情報を活用できる問題か
- ・ 生活や将来につながる問題か

若桜町「若桜学園中学校区」

自らの課題を把握し、計画的に継続して取り組ませたい

授業につながる自学

9学年を5つに分けた系統的な家庭学習の手引きを作成し、手引きに個々の自主学習の目標を書かせ、予習・復習等の授業と連動した自主学習を指導する。定期的な自学ノートの展示で先輩の学びを学ぶ。



手引きに自主学習の目標を書く

事業実施校では、授業改善の取組と合わせて、学力向上を支える基盤である家庭学習の質の向上に取り組んでいます。授業での学びと家庭学習が連動して学習理解の相乗効果を生み、児童生徒が自ら学習を計画したり、工夫したりするといった主体的な学びを促進させる、学びの質の向上につなげています。来年度に向け、さらなる充実をめざして実践が進められています。東部地区全体においても、新たな年度に向け、各校や各中学校区の実態に応じて家庭学習が取り組まれることを期待しています。